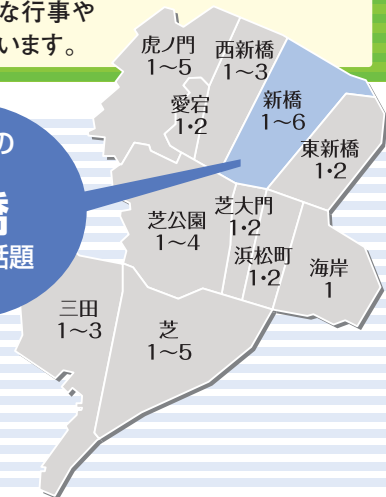


『芝地区地域情報誌』は、地域の皆さんとともに創る情報誌です。芝地区の「いい話」を紹介したり、様々な行事や活動の情報を交換したり、地域の皆さんと一緒に地域のことを考えていく場として、地域情報誌を発行しています。

第10号の
表紙は
新橋
エリアの話題
です



姫路から 鉄道発祥の地へ

SL広場のアイドル「C11-292号」

JR新橋駅前にあるSL広場というと皆さんは、なにを思い浮かべますか？
広場の愛称になっているSL蒸気機関車「C11-292号」はどこからきたか
ご存じですか？

「C11-292号」は、昭和20年(1945)2月11日に日本車輛名古屋工場で製造されました。昭和21年(1946)12月31日姫路(姫路第一)機関区に所属し、姫新線(姫路ー新見)や播但線(姫路ー和田山)で活躍した蒸気機関車でした。「C11」は支線区の近郊用(近距離)として開発された機関車です。石炭庫や水タンクの容量が小さく、長距離では途中で必ず給炭・給水・火床整理が必要となるため、姫路機関区の「C11」の運用範囲は、姫新線は姫路ー上月、播但線は姫路ー寺前に限られていたようです。長距離(姫路ー津山の直通列車)には、主に「C58」が運用されていたようです。昭和47年(1972)3月で播但線での「C11」の運用が廃止となり、蒸気機関車として働く場を失った「C11-292号」は、その年の8月に品川機関区に移籍、同年9月に廃車、10月に品川から新橋駅前まで深夜トレーラーを使って運ばれ、現在は新橋駅前SL広場でその華やかな容姿を披露しています。

なぜこの「C11-292号」が選ばれ新橋駅前に展示されたかについては、当時の国鉄(日本国有鉄道)内部の選定課程など詳しいことはわかりません。SLが廃止された昭和47年は、鉄道100周年と重なっていたため、国鉄が記念として全国各地の自治体に廃車にしたSLの無償貸与を行い、鉄道発祥の地である新橋にもという声で展示になったようです。

はるばる岡山県姫路市から新橋にやってきた「C11-292号」は、日本全国で一番知名度？のあるSL蒸気機関車になりました。今では汐留の高層ビルに見守られ、かつて白鷺城(姫路城)に手を振りながら元気に走り回っていた日々を思い起こしていることでしょう。

info



SL広場
JR新橋駅
烏森口側(駅西側)

*「C11-292号」の兄弟SLの「C11-80号」が保存されている岡山県津山市の「みまさかローカル鉄道観光実行委員会」のメンバーの方から「C11-292号」の情報を提供いただきました。

港区で
楽しむ
アート

4

半鐘と鳶口

とびくち

火事と喧嘩は江戸の華。べらんめえ！こちとら、芝神明様のお膝元、芝で生まれて神田で育ち、今は火消しの纏い持ちでえ。芝、町火消しの面子にかけて、このお江戸で火事などおこされてたまるけえ。

火事でえーと、今じゃ119番ですが、お江戸じゃ、まず火の見櫓に駆け上り方角を見定め、ジャン、ジャンと半鐘を叩いて火事を知らせ、「纏い」を持ち、刺し子頭巾に刺し子袴纏、股引、草履をはき、お水をざぶりと被り、鳶口を持って火事場に駆け付けました。いっきにはしごで屋根に上り、「纏い」を振り火消し方を元気づけておりました。

え、なぜ鳶口かって？徳川家康公によって防火のために愛宕神社が祀られるほどお江戸は火事多く、ある時代から、屋根に重い瓦をのせ、火災による飛び火を防ぐと共に、鳶口は瓦屋根、壁、柱等建物を破壊して延焼を防ぐに必要な道具でございます。

半鐘は定火消しが組織された頃から火の見

櫓に取り付けられ、近年まで町の人々に火災の危険を知らせました。

半鐘だって、芝消防署の前にあるだけに由緒がございます。残念ながら、め組の喧嘩に関し町奉行の裁定で、火消しと力士双方お構いなし、め組の半鐘のみ遠島に流されて、維新後に神明様に戻されたあの半鐘ではございません。

しかし、明治5年(1872)に48組の町火消しが消防組と改称され、明治14年(1881)警視庁に消防本署として所属、芝区宮本町(現大門1丁目)巡查屯所で芝・麻布2区を管轄とする消防2分署が作られました。その火の見櫓望楼に吊るされておりました半鐘で、芝地区の消火のためにお役に立ち、今の東京消防庁芝消防署に引き継がれております。

半鐘と鳶口とはしごの三つ揃えをご覧ください。

- 取材協力：芝消防署予防課消防司令補 水野 正己
- 参考文献：芝消防百年の歩み

〔文 ■ 森 明〕
(文中敬称略)



info



芝消防署
新橋6-18-15
TEL 03-3431-0119

変わる街、 変わらぬ粋

新橋・西新橋・
虎ノ門周辺

変わる街

環状第二号線の完成模型
(撮影協力：環状第二号線整備事務所)



"CHANGE"

(変化)

人の考え方も街も、時の 刻みのようにとどまることがない

安政3年(1856)頃の新橋、虎ノ門周辺は大名屋敷が並び、汐留に陸奥仙台湾(宮城)、新橋駅近辺に近江大溝藩(滋賀)、越後新発田藩(新潟)、赤レンガ通り(旧愛宕下大名小路)沿いに上野伊勢崎藩(群馬)、陸奥一関藩(岩手)等、桜田通り(旧愛宕下通)に讃岐丸亀藩(香川)、伊予松山藩(愛媛)、近江水口藩(滋賀)等の上屋敷があった(註1)。

明治維新になると屋敷は分割され、明治5年(1872)に汐留に新橋ー横浜間の鉄道ができ、日陸町通りは西洋の靴屋、古着屋、本屋(註2)、牛鍋屋(註3)等で盛んになり、さらに芝神明に和菓子屋等ができた。驚くことに築地居留地、西洋風ホテル等の誕生で明治11年(1878)に烏森町5(現新橋駅周辺)に乳牛5頭の牧舎があったことが港区史に記録されている(註4)。明治15年(1882)に現汐留イタリア街を起点にした新橋ー日本橋間に馬車鉄道が銀座中央通りを走りぬけ、明治36年(1903)路面電車が変った。明治42年(1909)田町駅ー烏森停車場(現新橋駅)間の東京市街高架鉄道が高架赤煉瓦アーチの完成で開通、大正3年(1914)東京駅に延伸した。「ピボット支承」なる技術を用いた現新橋駅烏森口の高架ガードは当時のもので一番古い(註5)。赤煉瓦高架は大正12年(1923)の関東大地震にも持ちこたえ今日に至っている。

震災後、この辺一帯の土地が測量され、東京都の震災復興区画整理図ができ、狭い路地が生まれた。昭和9年(1934)浅草ー新橋間、昭和14年(1939)に新橋ー渋谷間の営団地下鉄(現東京メトロ)銀座線開通、

昭和38年(1963)都営浅草線、昭和48年(1973)都営三田線が開通した。

明治時代から烏森神社の周辺に料亭等ができ(註6)、芸者さんの和服の水色が新橋色として認知されるに至り、他方西新橋、虎ノ門には官吏、実業家、貴族達の住居ができた。さらに、丸の内を中心にオフィス街、霞ヶ関の官公庁、鹿鳴館等の欧州風洋館の完成で西洋家具の需要があり、新橋、西新橋、虎ノ門一帯に洋家具製造の機運が高まり、多くの職人が集まり、分業による仕組みが生まれ芝全体に広がりを見せた(註7)。大正時代から一般住宅の洋風化と共に、新しいデザインが普及し、虎ノ門にアメリカ屋なる家具と建築のお店ができた(註8)。さらに戦後再度、最盛期を迎えた芝家具業界であったが次第に時代の流れと共に減少している。

第二次世界大戦の戦災で新橋一帯が焼失、戦後西新橋、虎ノ門に印刷業が多く誕生した(註9)。新橋は駅前広場での闇市から始まり繁華街になり、特に駅前周辺に多くの飲み屋、カウンター付きの小料理屋等が多く、中央官庁、オフィス街への出入口として新橋は「オヤジ」の街になった。さらに近年ファースト・フード店が進出したが、今なお明治創業の商店、個性ある料理店、鳥料理店等があり、それらと共に鶏肉店・お菓子屋・蕎麦屋等も営まれている。戦後、60年余に渡り環状第二号線新橋・虎ノ門間約1.3kmの道路計画で新橋、西新橋、虎ノ門を南北に分断していたが、平成時代になり着工に至り再開発に拍車がかかっている。このように変化し続ける街である。

この新橋、虎ノ門周辺のそこここにももって変わらず江戸、明治から脈々と受け継がれているもののひとつに、お寺、神社、店舗で何気なく掛っている扁額(ヘンガク・平らで横に長い額(註10))がある。看板といってよくいろいろ工夫が凝らされている。

扁額とは元来中国で生まれ、紫禁城、今日の北京の老舗等にも扁額は掛かっている。中国では、扁額の額縁が蝙蝠(ヘンブク・こうもり)の形をしたり、蝙蝠の形をした受け金具で支えられている。それは扁額の扁(ヘン)の発音と蝙蝠の「蝠」(フク)が同じ発音で、さらに蝙蝠の「蝠」(フク)が幸福の「福」(フク)の発音と同じで、しかも額の数え方も一幅(フク)で、「福」に通じている。「福」の意味が神から恵まれた豊かさや幸せであることから、この連想は扁額が幸せをもたらしてくれるものとなり、縁起が良いと考えられている(註11)。

日本の木の文化の伝統に沿って変化を遂げ、日本の扁額はおおむね年代物の大きな一枚板で、古い形式の右書きもあり、書体も篆書、隸書、楷書等がある。表現も墨筆、字に漆塗り、篆刻、金箔に木の文字を重ねたりいろいろである。室内扁額の額受け布団は、三角形で何やら蝙蝠を連想させ、伝統の美意識を受けて簡素化し、扁額と調和し美しさを引き立たせている。今日まで、この新橋、西新橋、虎ノ門のお寺、神社等はその門、社殿に、老舗、店舗等では明治以降、軒上か店内に商号の扁額を掛けている(註12)。扁額は目立たないが美しく、格があり、誇らしげに神社等が伝統を、店舗等では下町の粋を依然として引き継いでいる。

特徴ある文化を持ち続けているこの街に暮らし、仕事のできる喜びを感じると共に、さらに変化する街にあっても何気ない生活の中に変わらぬ美しさを持続する街でありたい。

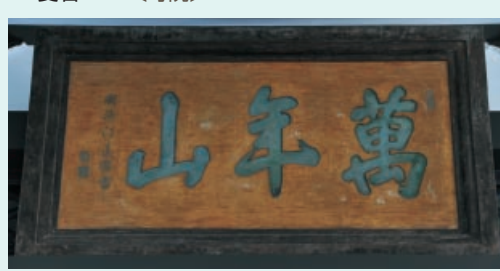
企画協力：張簡 光輝
(文 ■ 森 明)
(文中敬称略)

- 註1 中川 恵司 企画 江戸明治東京重ね地図 (傑エービーカンパニー)
註2 篠田 篤造 著 明治百話(下) p141-p142 岩波文庫
註3 港区役所 編 港区史上巻 p58
註4 港区役所 編 港区史 下巻 p498
註5 中西 隆紀 著 幻の東京赤煉瓦駅 p45 平凡社新書
註6 港区役所 編 港区史上巻 p57
註7 儀 元昭 編 芝家具の百年史 東京都芝家具商工業協同組合
註8 儀 元昭 編 前掲書 p535
註9 藤森 照信 著 日本の近代建築(下) p76-p77 岩波新書
註10 港区役所 編 港区史上巻 p70
註11 藤堂 明保 編 漢和大事典 学習研究社
註12 藤堂 明保 編 前掲書
註12 船越 幹央 著 看板の世界 p82 大巧社

変わらぬ粋

あたごじんじゃ
■ 愛宕神社
愛宕1-5-3 [神社]

ばんねんざん せいしょうじ
■ 万年山・青松寺
愛宕2-4-7 [寺院]

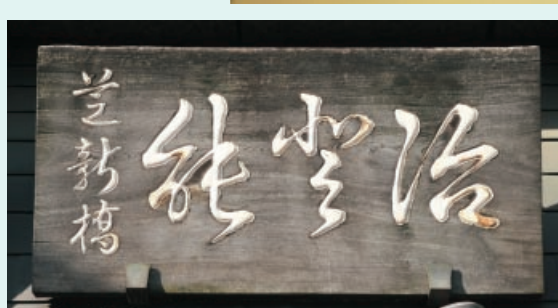


しはんめい えいたろう
■ 芝神明・宋太楼
芝大門1-4-14 (和菓子店)



しんしょうどう
■ 新正堂
新橋4-27-2
(和菓子店)

ぶんせんどう
■ 文銭堂
新橋3-6-14
(和菓子店)



の と じ
■ 能登治
新橋3-7-5 [蕎麦屋]

とらのもんすばいながき
■ 虎の門砂場稲垣
西新橋1-4-1 [蕎麦屋]



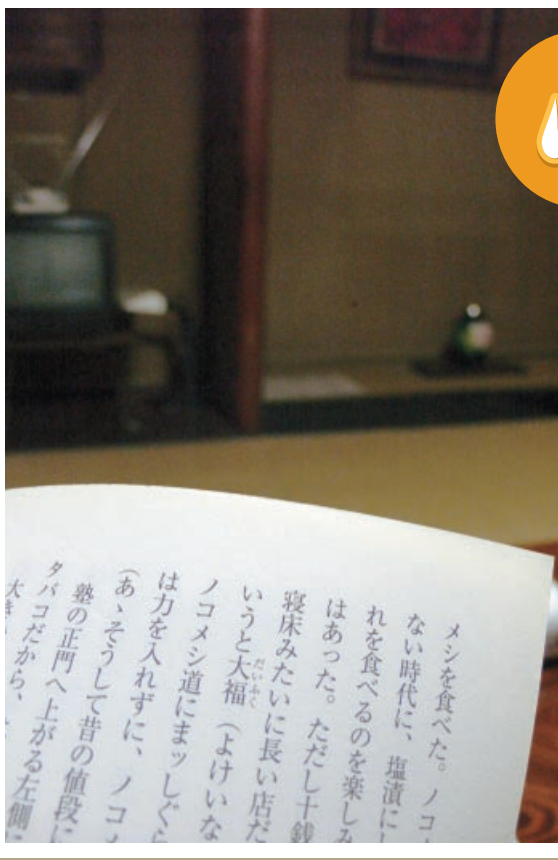
か が や
■ 加賀屋
新橋3-6-6 [鶏卸店]

あかしや
■ 明石屋
西新橋2-33-6
(染物屋)



芝地区 の風景

いにしへの景色と今を重ねて 創業明治40年「春日旅館」



「敗けて三田の通りへ出ては、いつもノコメシを食べた。ノコメシとはタケノコメシだ。一杯五銭だった、タケノコのカンヅメなんかない時代に、塩漬にしてとっておいて、一年中ノコメシをくわしたノコメシ屋。敗けてもそれを食べるのを楽しみに、試合をしに来た僕。」

(『サトウハチロー-僕の東京地図』ネット武蔵野より)

三田通りは、道路の拡幅工事など、時の移り行く町の変化で、商店が減少しました。慶應義塾大学もそばにあり、戦前の昭和初期には書店、洋食店、楽器店などのさまざまな商店が多く並ぶ、たいへん賑やかな学生街でした。

今回は、現在もこの三田通りで営業を続けている創業明治40年(1907)の春日旅館をお訪ねしてみました。

都会の慌ただしさから遮断され、落ち着いた和室で過ごしていると、サトウハチローの随筆にもある、いにしへの三田へタイムスリップしたような気分になりました。

生まれも育ちも三田という、昨年亡くなられた春日旅館の先代も、その当時のたけのこ飯がとても美味しかったと語っていたそうです。

現在の春日旅館の女将、加藤恵己子さんも三田で生まれ育ち、子どものころは、芝公園の滝まで遊びに行ったり、足をのばして日比谷公園のプールへも行ったそうです。お話を伺っていると、まだ東京タワーが無かった芝公園のあたりを想像してみたりしました。

旅館のお客様は観光客も多く、最近では静岡の小学生の団体さんが宿泊しました。「旅行の思い出として、広い和室の部屋で児童たちに雑魚寝をさせたい」という先生のご希望で春日旅館を選ばれたそうです。時代と共に、ますます生活の様式が変わっていく現代では、そんなささやかな夢を実現させるのも、なかなか難しいことなのかもしれません。

旅行のひとつきを三田で過ごした子ども達には、どんな景色が心に刻まれたのでしょうか。

(文・写真 ■ 桑原 庸嘉子)
参考文献／「芝っ子-終の住処を守る会 編」

info
春日旅館
芝3-43-18
TEL 03-3451-1443





私たちが生きている現代は膨大な情報が溢れています。新聞、テレビ、インターネットと、映像の情報があたりまえの現代、あえて言葉だけで情報を伝えるラジオ「文化放送」について取材しました。

言葉は文化だ!!

学校の近くにある文化放送で、ラジオの魅力取材しました。

お台場にフジテレビ、六本木にテレビ朝日、汐留に日本テレビ等情報基地が近隣に集中する浜松町に、平成18年(2006)文化放送がやってきました。文化放送では150名ほどの社員の皆さんがより良い番組制作のために日夜頑張っています。

テレビ番組の仕事は50人ほどで編成していますが、ラジオ番組は基本的に5〜6人という、少人数編成です。そのために特定のことをやる専門職のテレビよりも、一人ひとりがいろいろな仕事をこなして全体を把握でき、達成感を味わえ社員の皆さんの日々は充実しているそうです。

ラジオ番組は7割が生放送という緊張感を伴い、特にニュース番組にはとても気を遣うそうです。

放送では中立の意見だけではなく、リスナーからのさまざまな意見を受け、多くの議論が交わされ、さらにより良い番組へと練られていきます。いろいろな意見やさまざまな受け取り方があるからこそ成り立つとも考えられます。トーク番組では、声優や落語家たちの素の姿を知ることができて興味深いものがあります。パーソナリティは実にさまざまですが、若年層にはジャニーズ、AKB48など、中高年層にはトークが絶妙な大竹まことさんの番組などたいへん人気があるそうです。

また、文化放送では地域を盛り上げるさまざまなイベントも行っています。

“いろいろな人に音楽を届けよう”そんな思いから始まった文化放送前でのライブ「サテライトプラスライブ!」。通りがかりに、耳に入ってくる音楽に誘われていつの間にか聴き入ってしまったなんて経験がある人も少なくないのではないのでしょうか。浜松町に引っ越してきた当初から行われているこのライブは、毎週金曜日の夜6時から、さまざまなジャンルのアーティストがそれぞれの音楽を披露します(1月から3月の寒い時期には行いません)。

イベントはこれだけではありません。昨年11月3・4日には「浜松町グリーン・サウンドフェスター浜祭」のライブフェスティバルが開催され、楽しい屋台や番組のグッズ販売、ラジオならではの番組公開生放送が行われました。世界貿易センタービルディング・汐留芝離宮ビルディング・ポケモンセンタートウキョー・東京タワーなど周辺の企業と協力し、2日間で約11万4千人のお客さんが訪れたいへんな盛り上がりを見せ、赤ちゃんから80歳以上の幅広い年齢層が楽しみました。

ラジオは、車の中やケータイなどいつでもどこでも聴くことができます。映像はなく、言葉だけで伝えなければならないからこそ、言葉をより正確により丁寧にと作られているラジオ放送!!つまりいろいろな「文化」を「言葉」で伝える、「言葉」は「文化」なのです。

暇な時に・寂しい時に・リフレッシュに……ぜひ聴いてくださいな。

〔文・写真 ■ 東京都立芝商業高等学校 高比良 美久、竹本 南〕

info
文化放送
浜松町1-31
TEL 03-5403-1111(代)



放送の現場となるスタジオも見学させていただきました

後列左から文化放送の編成部次長・清水克彦氏と編成部広報・橋本庸介氏
前列左から芝商業高校の高比良さんと竹本さん

都内最大級の古墳が芝地区にあります

芝丸山古墳



「港区立芝公園」から見た後円部



「芝公園ランプ出口」から見た前方部



前方部からくびれ部・後円部を臨む



「都立芝公園」から古墳への登り口

東京タワーの南に広がる芝公園の西角に、小高い丘に樹木が生い茂っている一角があります。ここが芝丸山古墳です。全長106メートル前後・後円部径約64メートル・前方部前端幅約40メートル・くびれ部幅約22メートルほどの都内最大級の前方後円墳です。

古墳の南側にある現場標識には、「(前略)江戸時代以降、原形はかなり損じられており、とくに墳頂部や後円部西側は削られてしまっている。明治31年に、日本考古学の先駆者坪井正五郎博士によって調査されたが、すでに後円部中央に位置したと考えられる主体部(埋葬施設)は失われており、遺体や副葬品なども不明である。なお、埴輪を伴うことは知られている。前方部が狭く低

い形態や、占地状態などから五世紀代の築造とみられており、そのころ、附近の低地の水田地帯に生産基盤をもち、南北の交通路をおさえていた、南武蔵有数の族長の墓だったと考えられる。」と説明されています。

標識横の山道を登りながら東京市街地にあって自由に登ることのできる前方後円墳はここだけだろうなどと思って歩くこと2、3分。少し開けたところに着く。前方部だ。ここから後円部にかけてはベンチ等があり、そこが古墳だと言われなければ気づかないが、確かに「くびれ部」も確認できる。標高16メートルの台地にある芝丸山古墳である。

自然と人間が、時間をかけてはたらかあい、何度もやりなおしながら調和を作り出し、それがひとつの風景になっていく。崩れながらも都心に残された古墳にひとつの調和を見たような気がした。また、この丘の東南斜面には縄文時代後期のものと考えられる「丸山貝塚」もあり、この芝公園の一角の木々の間に歴史を感じることができた。

〔文・写真 ■ 岩崎 秀顕〕

info
芝丸山古墳
芝公園4丁目 都立芝公園内
東京都指定史跡
(昭和54年3月31日)

保育園レシピ

バラの花(のり巻き)

子どもたちが大好きなメニューを芝保育園で聞いてみました。ぜひお試しください。ご家族と一緒に作ってみてはいかがでしょうか？

info
芝保育園
芝5-18-1-101
TEL 03-3455-4669



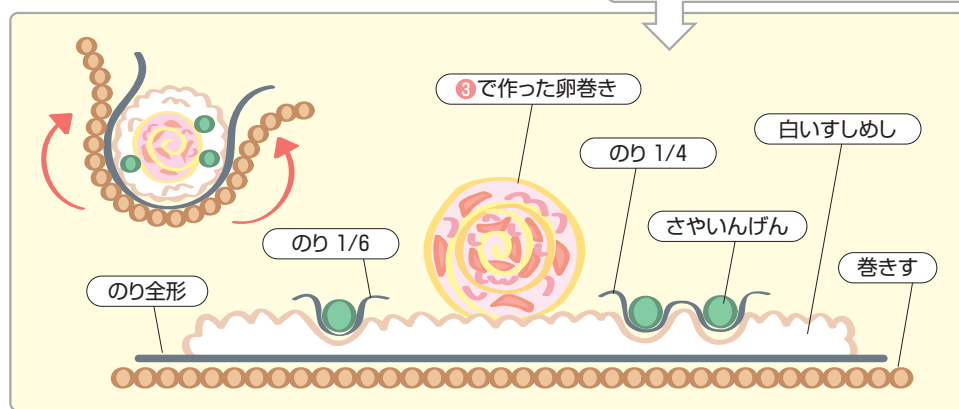
材料 (1本分=7個)

- すしめし
白 ————— 200g
桃色 ————— 60g
(市販のすし粉=花すしの素を使います)
- 薄焼き卵
卵 ————— 1個
塩 ————— ひとつまみ
- 鮭フレーク ————— 30g
- のり
全形 ————— 1枚
1/4 ————— 1枚
1/6 ————— 1枚
- さやいんげん — 5〜6本 (40g)



作り方

- ① 塩をひとつまみ入れた卵1個をよくかきまぜて薄焼き卵を2枚焼く。
- ② 「巻きす」を用意して、その上に①の薄焼き卵を1枚置き、桃色のすしめし半分(30g)を置き、鮭フレーク半分(15g)をバラバラと散らし、手前からしっかり巻き込む。
- ③ もう1枚の薄焼き卵にも同じように残り半分のすしめしと鮭フレークをのせ、②を手前に置いて巻き込む。これが「花」の部分になる。
- ④ 巻きすの上にのり(全形)を1枚、縦長に置き、白いすしめしを広げ、さい箸で向こう側に1本、手前に2本のくぼみをつける。のり1/6と1/4をそれぞれくぼみにはめ込み、その上に茹でたさやいんげんを入れる。これが「葉」になる。
- ⑤ 中央の空いているところに③の「花」の部分を置き、巻きすごと縦位置に持ち替え左右から巻き込んでできあがりです。1本を7個に切ります。



しばのいえ につき「芝の家」日記

昭和30年代にあったような、あたたかい人と人とのつながりの再生を目指して…

昨年10月4日にオープンしました昭和の地域力再発見事業拠点「芝の家」。今回からスタッフにより「芝の家」日記」として「芝の家」の様子を連載していきます。「芝の家」は昭和を感じさせる古い建具などを利用した地域の交流拠点です。お気軽にお越しください。

■10月末日 オープンから1ヵ月。いつのまにか…

「おかえりー」「ただいまー!」今日も芝の家の前で赤羽小学校から下校途中の児童と芝の家スタッフとの間で交わされているこのあいさつ、当たり前のように感じていたけれど、そういえば最初に子どもたちに声をかけをはじめたのは近所に住むおじいちゃんでした。80年前はご自身も赤羽小学校に通われていた方です。知らない人から「おかえり!!」と声をかけられて、少し戸惑い顔だった子どもたちも、今では小学校の大先輩にすっかりなっています。そして、おじいちゃんのこの自然なあいさつは、いつのまにか学生スタッフにも浸透していたようです。

■11月のある土曜日 現役少年 vs 元少年 ペーゴマバトル!

今日は、昭和の地域力再発見事業についてよく知ってもらうため、近隣町会の方々に芝の家まで足を運んでいただきました。みなさんに事業の目的や取り組みを説明していると、すぐそばで子どもたちが「ペーゴマを回しはじめました。すると、かつて少年だった大人たちの目が輝き、新旧少年入り乱れてのペーゴマバトルとなりました。芝の家へ来るようになるまではペーゴマに触ったこともなかった子どもたちですが、ペーゴマ世代の大人相手になかなかの健闘ぶりでした。

■12月の寒い日 「芝の家」と「縁側」

芝の家といえば、大きな窓越しに家の内と外を結んでいる「縁側」です。この縁側がなかなか優秀なのです。帰宅途中の会社員、買い物に出かける住民、さまざまな理由でいろいろな方々が芝の家の前を通りがかりますが、つい腰掛けてしまう気軽さを縁側は持っているのです。散歩の途中にお茶休憩をしてみたり、たまたま居合わせた人とお話ししたりと、縁側は知らない人同士のコミュニケーションを予想以上に促進してくれます。また、玄関から中に入らずとも、中にいる人とおしゃべりができるのも縁側の魅力です。

とはいえ、こんな寒い日に座る人はなかなかいません。冬の間は焚き火でもできればいいのですが、「たき火だ たき火だ 落ち葉たき〜♪」この歌詞にあるような光景が、かつては芝にもあったのでしょうか。スタッフは春の早い訪れを願うばかりです。ほかほか陽気のもと、縁側で再び芝談議に花を咲かせたいものです。

■1月のはじめの運営会議 スタッフも楽しい!!

昨年10月のオープンからこれまでの3ヵ月間を振り返って、学生スタッフから「まちを歩くとか知っている人に会うようになった。あいさつが交わせてうれしい」「地域の方々とかかわれることが楽しかった」という感想が多く出ました。スタッフが感じているこの喜びを、平成21年はずっと芝地区に広がっていきます。本年もどうぞ芝の家をよろしく願いいたします。

info
芝地区昭和の地域力再発見事業拠点「芝の家」
芝3-26-10
TEL 03-3453-0474
●水・金・土 13:00~18:00開室



母の意志を受け継いで～愛宕とともに～

古永 正枝さん 昭和4年(1929)生まれ 79歳

昭和11年「西櫻尋常小学校」時代の思い出

私の母は愛宕小町と呼ばれた生粋の「芝・愛宕っ子」。母の生家が愛宕にあり、父と結婚後も愛宕の地で私と弟を育ててくれました。港区が住居表示の変更を計画していたときも、『愛宕』という町名を残したいと運動したぐらい愛宕の地を愛していた母の意志を継ぎ、私も愛宕を見守り続けています。

私は昭和11年(1936)に小学校1年生になりました。通学区域は頼倉尋常小学校でしたが、大正12年(1923)の関東大震災で全焼した校舎が、鉄筋3階建てのモダンな復興校舎に完成ということで、家から近いのと校舎が新しいので西櫻尋常小学校に入学しました。小学生だった私は、戦争の影響もなく上野動物園や高尾山に遠足に行き、修学旅行は伊勢神宮でした。



西櫻(さいう)56年の回顧(1984.3発行)より



平和な思想を育むには ～ああ学童疎開～

小沼 松良さん 昭和7年(1932)生まれ 76歳

遠足に行くような気持ちで学童疎開へ

(記憶では)昭和19年(1944)6月に芝国民学校(現在の芝小学校)在校生の学童疎開が始まりました。当時の芝国民学校は各学年1クラス60名で3クラスまでであるという大変生徒数の多い学校でした。私たち6年生男組は、約60名が学童疎開に行くことになりました。電車で揺られ栃木県塩谷郡の学童疎開先に行くのは、これから待っている、親とずっと離れて生活するという不安よりも遠足に行く浮き浮きした気持ちのほうが勝っていました。当初は、喜連川という町に3年生から6年生まで全員お世話になる予定でしたが、あまりに多いので6年生は氏家の西導寺に男の子、葉王寺に女の子が宿泊することになりました。

疎開先「西導寺」での数々の思い出

氏家での生活は担任の先生と補助の先生、ふたりの保育士さんが面倒を見てくれました。西導寺の本堂に60人分の布団を敷いて寝るんです。布団の海で最初はおもげらしく楽しかった。子どもですから喧嘩はつきもので、喧嘩が大人に見つからないように60人分の布団を丸く積み上げて真ん中をあけ、即席のリングを作ったりしました。朝は本堂の掃除と住職とともに「朝のお勤め」、正座をして全員でお経を唱えます(いまでもお経を唱えられます)。

授業は氏家の国民学校で地元の子どもたちと一緒に勉強しました。お昼になると私たちは小さなおにぎり、地元の子はお弁当と少しうらやましい時間でした。でも、私の記憶では、そんなにひどい

咲き、学校の名前は統廃合でなくなりましたが私と学校の絆はますます深くなっています。

女学校時代は戦争一色に…

小学校を卒業して4年制の旧制女学校に行きました。女学校の2年生になると授業でできたの訓練や芝浦にあった東光電気(東京電力の子会社)に学徒動員で働きに行くなど、日常生活が戦争一色になりました。我が家の前に愛宕市場という、日常生活用品を商っている便利なマーケットがありました。でも、戦争が激しくなってくると間引き疎開(戦火を止めることを目的に作った空き地・焼け止まり)ということで愛宕市場はなくなりました。昭和20年(1945)の5月25日の大空襲では、留守番をしていると突然、空襲警報が鳴り、取るものもとあえず隣の家にいた身重の叔母をリヤカーに乗せ夢中で皇居まで逃げました。今思うと16歳の私のどこにこんな勇氣と力があつたのか不思議です。そのあとも大変でした。空襲がおさまりに家に戻ると家が半焼してしまし、無人の家だと思われたのか焼け跡から物を盗んでいく火事場泥棒もいて、焼け残った家財がなくなるなど悲惨な状況でした。それでも、間引き疎開のおかげで雨露がしのげる家が残ったのは幸いでした。隣にあった母の実家は焼けなかったので、身重だった叔母はそこで7月に元気な男の子を出産しました。戦争の中の嬉しい出来事でした。

焼け跡の中、愛宕市場の空き地を畑にして、近所

あの頃、戦争があつた

のひとと少しでも食料を調達しようと野菜づくりを始めました。作物が収穫できるころは、野菜泥棒がやってきましたが、父は命が取られるわけではないと言って黙って見ていました。そんな家風だったので、私はいまでも人の役に立つことを心掛けています。

「若い娘は防空壕に隠れていなさい」

戦争が終わり残りの女学校生活が終了すると、友人たちは会社勤めを始めましたが、父は私が外で働くことを許しませんでした。「GHQが町を闊歩しているうちは安心できない、若い娘は防空壕に隠れていなさい」という時代でした。そこで西櫻尋常小学校の敷地内にあった聖徳洋裁学校に2年通い、師範の課程を修了すると自宅で洋裁を始めました。まだまだ戦後の混乱が続いている時期で、衣服の需要に供給が追いついていなかったのか、洋裁ができることで仕事に追われ、既製服が出回ってくる昭和44年(1969)まで続けました。その後、(社)芝法人会、東京プリンスホテルに勤務し、現在もシルバー人材センターに登録し筆耕の仕事をしています。

* *

焼け野原から高層ビルのまちへと変貌してきた愛宕を、戦前に生まれ、戦中、戦後の復興、平成の時代とずうっと見守ってきましたが、再開発の話が出たことをきっかけに、平成20年(2008)9月、愛宕の家から西櫻尋常小学校のあった虎ノ門に転居しました。東京タワーを正面に臨む地でこれからも愛宕を愛していきます。 I LOVE ATAGO !!



学童疎開のとき、西導寺で先生や保育士さんと寄せ書きをした、その写しが今も残っています

神田から芝2丁目に移転して来ました。父は進歩的な人で蕎麦を機械でつくる方法を取り入れました(今でもうちは機械で蕎麦をうっています)。戦争中は、昼は雑炊食堂、夜は国民酒場をやっていました。お酒は統制で切符をもっていないと飲むことができない時代でたくさんの方が店の前に並んでいました。当時も大人の楽しみは「酒」だったんですね。戦後バラックで蕎麦を売るようになりました。これも配給で、粉を調達するには、蕎麦を食べに来る人がもってくる切符が必要でした(新聞紙一面に切符を張り1枚で1升の粉が手に入るという仕組み)。もちろんお金も必要ですが、蕎麦の自由販売になる昭和25、26年(1950、51)まではこの方法が取られました。

* *

学童疎開や戦争を経験してきた私は、「平和な思想を育むのは、偏見のない情報の伝達が必要である」と思っています。私たちは戦争を正義の戦いとして国家のため、天皇陛下のために命を捧げることを美徳としてきました。終戦による変化はあまりにも大きく、迷い苦しみました。小学校時代の教育の重要さを思い、公平な情報の伝達こそが平和な時代への架け橋だと、つくづく感じます。

戦後はバラックで蕎麦屋を営む

我が家は関東大震災の後大正13年(1924)に

【芝歴史探訪】

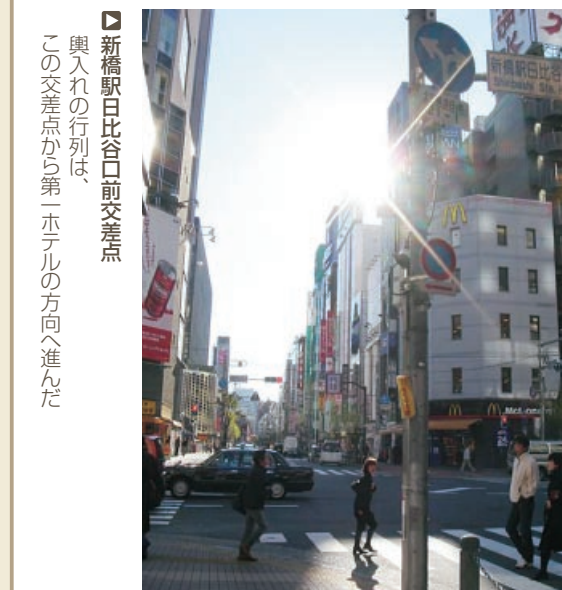
昨年NHK大河ドラマで大人気だった「篤姫」ですが、港区にはさまざまなゆかりの地があります。そのブームにのり「篤姫ゆかりの地を歩こう」というイベントなども開催されました。

13代将軍徳川家定に嫁ぐため、薩摩から江戸にきた篤姫最初の住まいは、芝の藩邸でした。そこから渋谷の屋敷に移り、婚禮の日を待っていたとのこと。当時の日本は黒船が来航し、外国からの開国をせまられていた幕末の混乱期でしたが、徳川家の婚礼は一大イベントであるため莫大な資金、人員が注がれました。婚礼費用は、現在の金額で10億円以上用意されていたようで、輿入れの行列は、先頭が江戸城に到着してもまだ、最後尾が出発点の渋谷を出ていないというほど盛大な儀式でした。

行列のルートは、渋谷から出発して六本木ヒルズの辺りを回って、飯倉交差点を通り、新橋、日比谷、江戸城という幕府が決めた順路でした。順路を古地図と照らし合わせてみると、新橋ではちょうど現在の第一ホテルの横を通過したことがわかります。ここは現在、ビルが建ち並び当時とは全く別の景色ですが、幕末の波にもまれて、さまざまな葛藤があったにちがいない篤姫が「女の道は一本道、引き返すのは恥でござる」との強い意志を持って徳川家に嫁いだことを思うと、新橋周辺を照らす夕方の光が、まっすぐに道を照らしているように見えてくるから不思議なものです。

また、婚礼時に篤姫が乗っていた乗り物が今年の2月初めまで江戸東京博物館で公開されていました。まさに動く、美の御殿といった感じの乗り物で金銀を用いて漆黒の地をきらびやかに飾る蒔絵は、海外でも人気が高くアメリカのギャラリーに所蔵されています。

篤姫婚禮の道のり



▶新橋駅日比谷口交差点
輿入れの行列は、この交差点から第一ホテルの方向へ進んだ



▶新橋駅日比谷口交差点を背に有楽町方面を見ると左側に第一ホテルがある。行列はこの先の交差点を左折して日比谷公園・内幸町交差点へ抜け、江戸城現在の星屋へ向かった

婚禮の道のりからは少し離れますが、近くには東京23区内で最も標高が高い愛宕山があります。篤姫の思いを受けた西郷隆盛と勝海舟の両氏が、この山の上から城下を眺めて話し合い、江戸城の無血

開城に至った場所だともいわれています。

近くにはNHK放送博物館があり、これまでのNHK放送の歴史の資料が展示されていて大河ドラマのコーナーもあり、見ごたえ十分です。

(文・写真 ■ 小林 真紀子)



「還付金詐欺」にご注意ください

主税局職員や税務職員を装い、医療費や税金などの還付金があると言葉巧みにだまして、携帯電話から指定した電話番号にかけよう指示し、金融機関等のATM（現金自動預払機）を操作させ、多額の金額を振り込ませようとする「還付金詐欺」が都内でも多発しています。

主税局では、還付金をお渡しするために、金融機関等のATMの操作を求めることは絶対にありません。

ATMの操作を求められたら、それは「還付金詐欺」です。



主税局イメージキャラクター
タックス・タクちゃん

不審に感じた場合は、相手の氏名、所属する部署名を確認のうえ、相手の指定した電話番号にはかけずに、最寄りの都税事務所、または主税局総務部相談広報係（03-5388-2924）までご連絡ください。

万が一被害にあってしまったら、まずは警察にご連絡ください。また、平成20年6月21日に施行された「振り込め詐欺救済法」により、被害回復分配金の対象になる場合があります。分配を受けるには、金融機関への申請が必要です。詳しくは、振り込みを行った先の金融機関にご相談ください。

●問い合わせ先 港都税事務所相談広報担当 TEL 03-3453-3211（代）
主税局総務部総務課相談広報係 TEL 03-5388-2924

レポート

冬の夜空が

ニッコリ

★星を見る会★

昨年12月1日午後5時から芝公園児童館で星を見る会が行われました。

この日は、木星と金星が最接近し、そのすぐ近くに月が見える非常に珍しい現象とニュースなどでも紹介され、空気が澄んだ冬空のもと、雲間から見える星空をバルコニーから双眼鏡などで眺めました。金星が左目、木星が右目、その下に三日月の笑った口が並び、夜空に“笑顔”が広がりました。その光景に子どもたちも微笑み、好奇心に満ちた目で、宇宙の神秘を考えていました。

物理を専攻されている東京工業大学附属科学技術高等学校の小菅京先生により、パソコンとプロジェクターを使用した星や宇宙に関するクイズや、今日の夜空のプラネタリウムも上映され、参加した子どもたちは、ひとときの宇宙旅行を楽しんでいました。



芝公園児童館
芝公園2-7-3
TEL 03-3433-6515

「みなとコール」は 暮らしの疑問にお答えします！



区役所のサービスや施設案内、催し情報など、お気軽にお問い合わせください。

年中無休／午前7時～午後11時

※英語での対応もいたします。

ゴヨウ（ほ）ナーニ ミナト（コールです）

TEL 03-5472-3710
FAX 03-5777-8752

Eメール：info@minato.call-center.jp

警視庁犯罪被害者 ホットライン

被害者や家族の相談窓口です。

迷わずに
勇気を出して
相談してください



匿名でもOK 秘密厳守 お気軽に

TEL 03-3597-7830
FAX 03-3592-6840

愛宕警察署

大規模災害に備えて…

あなただけの「帰宅支援マップ」をお作りします！

～芝地区総合支所へお越しください～

大地震などの災害の発生により電車やバスなどの公共交通機関がストップした場合、皆さんはどのようにして自宅まで帰りますか？

通勤、通学、買い物などで自宅から離れた場所にいる時に災害が発生し、自宅まで帰るのが困難な人のことを「帰宅困難者」といいます。大規模災害が発生した場合、首都圏で非常に多くの帰宅困難者が出ることが予想されています。

公共交通機関が使えない以上、ほとんどの方が徒歩での帰宅を余儀なくされるでしょう。その際には、より安全で効率的なルートを選んでいく必要があります。

1月13～16日の4日間、世界貿易センタービルディング（浜松町）内にて「2009年 帰宅困難者対策イベント」を開催し、大勢の方に参加して頂きました。会場では、徒歩で帰宅する際のルートを検索し、一人ひとりにオリジナルの「帰宅支援マップ」を作成しました。作成方法は非常に簡単。出発地（勤務先など）と目的地（自宅）を設定するだけでコンピュータが帰宅経路を検索してくれます。

このハンドブックには、一人ひとりの帰宅ルート地図が記載されているほか、各自治体の定める避難場所や災害拠点病院、コンビニなど災害時に利用できる施設も表示されており、さまざまな情報を得ることができます。

災害はいつ発生するか分かりません。いざという時に備えて、日頃からの準備や心がけが重要です。その備えは被災時に大きな助けとなるでしょう。現在は特に備えをしていないという方も、ハンドブックの作成をきっかけに災害対策について考えてみてはいかがでしょうか。

3月31日までは、引き続き芝地区総合支所にて「帰宅支援マップ」作成会を実施していますので、ぜひご参加ください。

とき

平成21年1月19日（月）～3月31日（火）
9:00～17:00 ※土日・祝日は休み

ところ

芝地区総合支所 地区活動推進課
（港区芝公園1-5-25 区役所2階）

問い合わせ先

TEL 03-3578-3121

※参加費は無料です。



「2009年 帰宅困難者対策イベント」の様子
浜松町の世界貿易センタービルディングで行われた

作品募集

芝地区「心の風景」の写真を募集します

皆さんの心に残る場所・大切にしたいものは何ですか？ 昔から変わらない路地裏、思い出の場所、これから残し続けたい芝地区のいいところ……写真を募集します。ご応募は芝地区総合支所地区政策課（TEL 03-3578-3191）まで。お待ちしております。

芝地区地域情報誌・編集委員を募集しています！



芝地区の話題を発掘し、取材していただく地域情報誌・編集委員（記者）を募集します

【対象】芝地区管内に在住、在勤、在学で取材に携わりたい人

【内容】地域の話題の収集、取材、写真撮影、原稿作成など（年間4回発行予定）1回の取材などで平日の昼夜間に2時間程度、発行予定ごとに平日夜間、1回編集会議への参加があります。

【申し込み】氏名、住所（在勤、在学の方は所在地）、連絡先、在住・在勤・在学の区別を明記の上、下記の芝地区総合支所地区政策課まで、FAXまたは郵送で申し込みください。

【その他】報酬等の支払いはありません。

★本誌の制作には以下の編集委員が参加しています。
岩崎秀顕／大澤佳枝／桑原庸嘉子／小知和千佳子／小林真紀子／鈴木あかね／森明

★また今後の発行スケジュールは次の通りです。
H21.5.20発行（第11号）、H21.8.20発行（第12号）、
H21.11.20発行（第13号）、H22.2.20発行（第14号）

芝地区地域情報誌の配布について

芝地区総合支所【芝・海岸1丁目、東新橋、新橋、西新橋、三田1～3丁目、浜松町、芝大門、芝公園、虎ノ門、愛宕】内の地域の方にお届けしているほか、地区内各施設にて配布しています。

港区芝地区総合支所地区政策課

所在地：〒105-8511 東京都港区芝公園1丁目5番25号（港区役所2階）
TEL：03-3578-3191 FAX：03-3578-3180
ホームページ：http://www.city.minato.tokyo.jp/sisyo/siba/